

一般質問

6月定例会では、17人の議員が一般質問を行いました。(順不同)

Q&A



一般質問とは、本会議で議員が市政全般にわたって市長等(執行機関)に対して疑問点を質問したり、政治姿勢を明らかにしたりするものです。



ヤングケアラー及び若者ケアラーの支援拡充を
「公明党」 中山 真由美

Q 子どもに関係した相談内容は多岐にわたり、増加傾向といふことから、さらに必要な人員を充足し、配置することが必要と考えるが、市長の考えを聞きたい。

A 【市長】 福祉、介護、医療、教育など多分野の連携の強化を図り、ヤングケアラー支援につなげることが必要であると考える。



多様化する社会と市民ニーズに応える市役所体制
「いせはら未来会議」 相馬 欣行

Q 管理職の役割は業務達成と人づくりだと考えるが、部下の評価や昇格等のプロモートづくりについて、現在の状況について確認したい。

A 【総務部長】 職員の評価は、人事評価制度を導入している。面談で個人の業務目標の方針や達成状況についての指導、助言、期待する役割などを話し合うことで、評価者と被評価者、それぞれの能力開発につながるものと考えている。

人事評価結果を勤勉手当の成績率に反映しており、今後は4級の主査以下の職員にも対象者を拡大しながら、業績の評価と処遇への反映を進め、職員のモチベーションの向上に結びつけていきたいと考えている。

また、職員意向調査において、経験したい分野や生かしたい能力、資格等を把握し、これまでの経験や身につけた能力などを踏まえて配置を行うなど、伊勢原の将来を担う職員の育成に努めていきたいと考えている。



架橋後70年、老朽化した十二神橋についての見解を
「創政会」 大山 学

Q 十二神橋は老朽化が激しく、狭く、大型観光バスが通行できず、日向地区のボトルネックとなっているが、今後についてどのように考えているのか聞きたい。

A 【土木部長】 平成28年度の橋りょう定期点検や、令和3年度に実施した詳細調査において、主桁、橋台、高欄部分でひび割れや剥離、橋面部分で舗装の劣化等を確認したことを踏まえ、市橋りょう

長寿命化修繕計画に基づき実施した修繕詳細設計にのっとり、修繕工事を本年11月頃から着工する予定としている。

橋りょうの定期点検が5年に1度、義務づけられているので、これらの点検結果とともに、地域の特性や地域資源、将来像などを総合的に勘案しながら、十二神橋の架け替え計画も含め検討を進める必要があると考えている。



土地利用構想について
「創政会」 館 大樹

Q 用途地域の変更という制度を駆使して市街地活性化を図る試みが他市事例であるが、当市の今後の発展を考えた場合、さらなる手法の研究、開発をして、まちの姿を誘導するといった都市政策の開発、手法の開発、理想像の明確化が必要と考えるが見解を聞きたい。

A 【都市部長】 本市は鉄道を中心に段階的に低層低密度の住宅地へ移行す

る都市構造を、都市マスタープランの将来都市像として描いている。さらに、令和2年3月に策定した立地適正化計画では、3つの基本方針に基づき、多様な交流に支えられるコンパクトで持続可能な都市づくりを進めている。

今後の人口減少社会を見通すと、人口密度を維持するとともに、居住環境の質を高めていくことが重要であると認識して



オートファジー16時間ダイエットについて
「いせはら未来会議」 安藤 玄一

Q 空腹時間が人間の体にもたらす影響についてどのように認識しているか、また、空腹時間が免疫力を高めることも認識の中にあるのかどうか聞きたい。

A 【健康づくり担当部長】 空腹時間を持つことにより、食事を取り過ぎている方が減量につながることで生活習慣病の改善につながるケースはあると認識している。しかし、一概に空腹時間がよい影響をもたらすと認識する

ことはリスクを伴うと考える。また、空腹時間が免疫力を高めることを支持している医師や有名人などもあることは認識しているが、市として信頼できる情報源からの発信でないことも認識をしている。

※オートファジーとは、自食作用と呼ばれる、細胞が自らの一部を分解する作用のこと。

【その他の質問】
◎本市の健康施策について ほか



現状の避難所の数で、災害時に足りるのか
「創政会」 小沼 富夫

Q 17の広域避難所、19の臨時避難所、そして14の福祉避難所があるが、現状の数で十分なのか見解を聞きたい。

A 【危機管理担当部長】 避難所で大人が横臥して休むことのできる面積として、1人当たり約25㎡が必要とされている。これを踏まえ市内の広域および臨時避難所の有効面積を合算し割り戻すと、約2万人の避難者を収容できる計算になる。

【その他の質問】
◎持続可能な高齢者支援制度について

本市が最大級の地震と

【その他の質問】
◎地域通貨について



本市におけるフェーズフリーの考え方について
「いせはら進誠会」 山田 昌紀

Q フェーズフリーという言葉の市民への周知、本市においてフェーズフリーの考え方に基いて実施されている取り組みの現状について聞きたい。

A 【危機管理担当部長】 市では、これまでカセットコンロや懐中電灯、キャンプグッズなどを非常備蓄品や非常持ち出し品として準備するよう啓発してきたが、これらはフェーズフリーとしての価値を持つものである。また、ローリングスト

ックといった循環式の備蓄方法も呼びかけてきたが、これは利用方法によってはフェーズフリーとしての価値があることを示すものである。

このほか、井戸水協力の家登録制度や防災協力事業所登録制度なども、根底においてフェーズフリーの概念と考えを同じとするものであると考えている。

【その他の質問】
◎バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりについて



全ての世代で必要とされる就労のための支援について
「神奈川ネット」 土山 由美子

Q 就労のための支援は全ての世代で必要とされるが、就労準備支援事業対象者以外の支援についてどのように行っていくのか聞きたい。

今後についても、これまでの就労支援事業をさらに推進していくことで、8050問題等で働かなくても働けないとされる方も含め、就労の支援を推進していきたいと考えている。